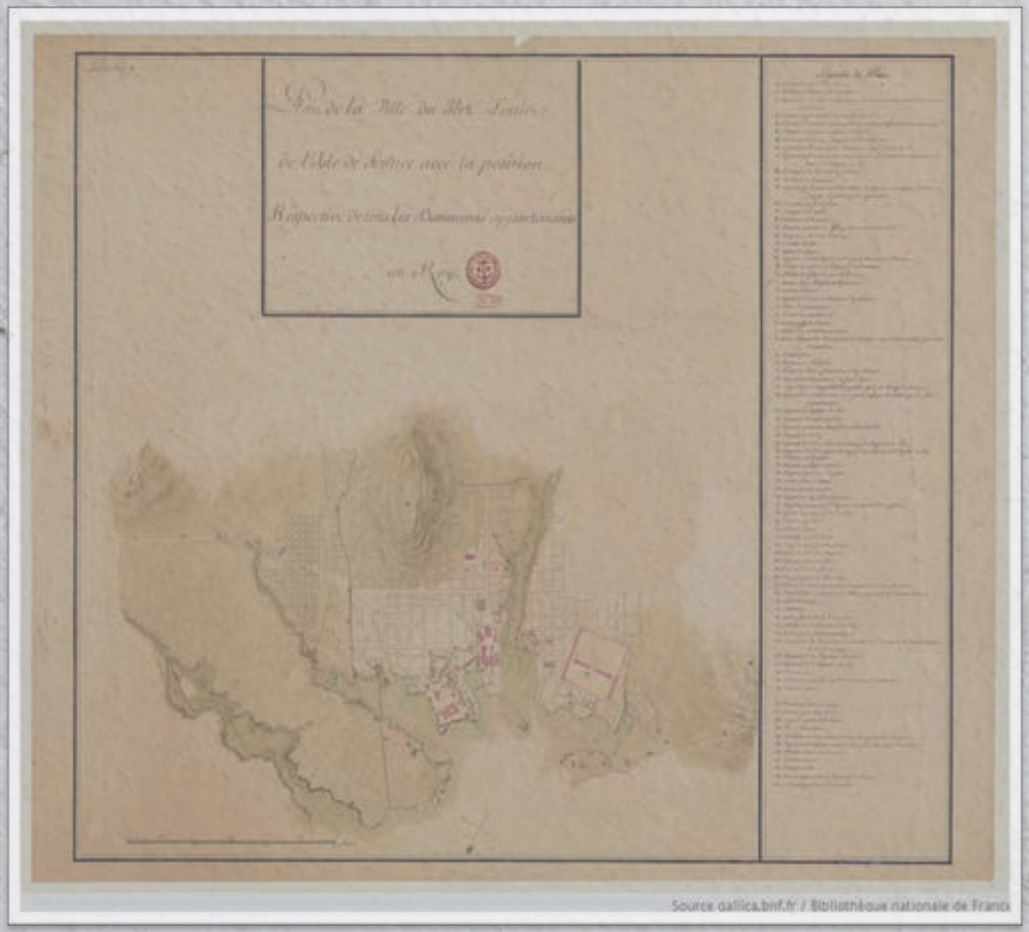
講演
カトリーヌ・ドニ
「近世フランスの植民地のポリス
――フランス島ポール＝ルイの事例を通じて (1767 ～ 1789)」



6 月 7 日（水） 12:40 - 14:10

海外事情研究所会議室 (427)

Catherine Denys, Professor of Early Modern History at the University of Lille
カトリーヌ・ドニ、リール大学教授

The Port-Louis police office in the « Isle de France » (Mauritius), 1767 -1789 : Parisian model and colonial adaptations

「グローバル化の進行する近世・近代を通じてモーリシャス島は、オランダ、フランス、イギリスの統治に組み入れられた。「フランス島」としてフランスの支配下にあったのは、1715年から1810年までである。本報告では、主に18世紀後半における同植民地のポリスのプラクティスを警察文書から読み解き、また、そこでパリの警察制度がモデルとしてどのように適応されたかを検討する。」

主催：海外事情研究所＋基盤研究Ｂ「高大連携による歴史教育の実践的研究」
共催：国際社会学部西南ヨーロッパ第一

使用言語：英語（通訳なし）

問い合わせ先：海外事情研究所 ifa@tufs.ac.jp　申込み不要。お気軽にお越し下さい。